

地区防災計画を中心とした

恵那市自主防災隊・運営ガイド

『私たちの地域は自分たちで守る』

令和3年度 第5版



恵 那 市

<コラム> 阪神・淡路大震災の体験談（救出）

次は、近くの医院に走る。半壊した中から聞き慣れた先生の声がする。

「生きている。大丈夫だ」

二次災害を気遣いながら、窓から寝室へたどり着いた。寝巻姿の先生が落下した天井と家具の隙間に小さくなって、救助を待っていた。

この後、近状の人や見知らぬ人たちが徐々に集まりだし、救助の輪が広がり始めた。

商店街西端のある布団店の人が生き埋めになっている、との連絡で至急現場へ向かった。どうやら、おじいさんと娘の、2人が取り残されているようだ。倒壊した2階建ての家の中は、直径20センチ位の柱や梁などが入り混じり、前進できない。余震の続く中、ノコギリを使っての救出活動を展開した。作業が進むにつれて、我々もいつ生き埋めになるかもしれないという不安が頭を過ぎる。

やっとのことで、2人に近づくことができた。こうして、たくさんの方が一丸となり、救出したのである。

出典：「雪（1995年4月）」神戸市消防局広報誌『雪』編集部

平成20年度 初版（防災対策課）

平成25年度 第2版（防災情報課）

平成27年度 第3版（防災情報課）

令和 元年度 第4版（危機管理課）

令和 3年度 第5版（危機管理課）

このマニュアル（平成20年度初版）は、当時の恵那市役所防災対策課、恵那市社会福祉協議会、恵那市まちづくり市民協会・防災研究チームの協働により制作・編集を行いました。（イラスト 丸山和代）

も く じ

地区防災計画とは	4
自主防災隊とは	5
自主防災隊の組織	6
自主防災隊の役割	7
年間計画による活動のすすめ	8
自主防災隊が平常時に行うこと	9
最も重要なポイントは減災対策を行うことです	9
家屋の耐震診断を受け耐震化をいしましょう	9
家具の転倒防止をいしましょう	9
自助で行うこと	10
避難経路	10
非常持出品の整理	10
備蓄品の用意	10
防災畑のすすめ	10
井戸の活用	10
共助で行うこと	11
年間の活動計画を策定しましょう	11
自分たちの住む地域の危険箇所（脆弱性）の把握	12
連絡網や要支援者リスト・個別計画の作成	12
一時避難場所の設定	12
指定避難所の運営	12
防災備蓄品の装備	13
最低 1 週間以上は生き延びる心がまえを！	13
家具の転倒防止を協力して行う	13
自主防災隊の訓練メニュー	14
災害時に自主防災隊が行うことは？	15
自助 自分の身の安全に心がけます	15
災害の発生時は、まず自分の命を守り安全の確保をいしましょう	15
大地震が発生したら落下物に注意し身の安全を確保します	15
大雨による水害や土砂災害の恐れのある場合は、早めの避難に心がけます	15
共助 自主防災隊が被災状況の把握を行い活動の方針を決めましょう	16
避難の判断、支援	16
一時避難所の開設	16
被災状況の把握、活動	16
自主防災隊が参考とする資料	17
自主防災隊が活用する窓口	18
資料－1 自主防災隊編成表	19
資料－2 自主防災隊規約（例）	20
資料－3 自主防災隊 年間計画書、書式	22
資料－4 自主防災隊が装備をしたい品物の一覧表	23
資料－5 防災計画策定チェックシート	24
資料－6 C-DAPワークシート	27

地区防災計画とは・・・

従来、防災計画としては国レベルの総合的かつ長期的な計画である防災基本計画と、地方レベルの都道府県及び市町村の地域防災計画を定め、それぞれのレベルで防災活動を実施してきました。

しかし、東日本大震災において、自助、共助及び公助がうまくかみあわないと大規模広域災害後の災害対策がうまく働かないことが強く認識されました。

その教訓を踏まえて、平成 25 年の災害対策基本法では、自助及び共助に関する規定が追加されました。その際、地域コミュニティにおける共助による防災活動の推進の観点から、市町村内の一定の地区の居住者及び事業者（地区居住者等）が行う自発的な防災活動に関する「地区防災計画制度」が新たに創設されました（平成 26 年 4 月 1 日施行）。

恵那市においては、この制度を積極的に推進し、地域の自発的な活動により防災力を高めることを目標に、平成 27 年度から地区防災計画の策定支援を行っています。

計画の策定にあたっては、本来自発的な活動によるのが趣旨ではありますが、当面、自治区の自主防災隊（組織）単位での策定を促し、その後、自治区内の単位等での策定につなげるという考え方で進めていきます。

また、地区防災計画については、単に計画を作成するだけでなく、計画に基づく防災活動を実践し、その活動が形骸化しないように評価や見直しを行い、活動を継続することが重要ですので、そうした意味において、このガイドが有効的に活用されることを期待します。

参考 地区防災計画ガイドライン（内閣府発行）

恵那市内の自治区（13 地区）



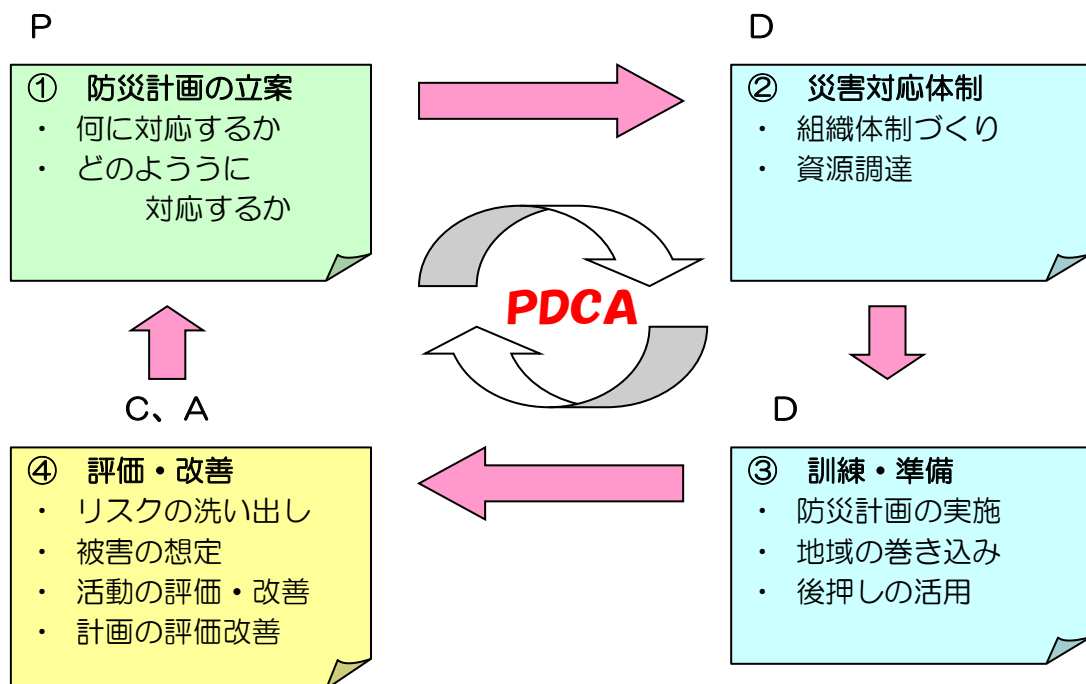
自主防災隊とは・・・

地震や集中豪雨などの大災害が発生した場合、消防署や警察署などの行政機関は直ちに救護や救援活動を始めますが、建物の倒壊や道路の不通、また通信の不通、火災の同時発生などにより思うように動けないことが想定されます。

このような場合は公的な救護や救援を待つのではなく、そこに住む人たちで力を合わせて助け合わなくてはなりません。地域（例えば自治会組織）で危険を回避し、被害を最小限に食い止めるように統制をとりながら活動する組織が自主防災隊です。

一般的に自主防災隊の活動は避難訓練、炊出し演習の実施や、救命講習をはじめ各種の研修を受けることなどを想定します。これらの継続的な活動には大変重要な意義がありますが、さらに発展して、これらの活動をしてみて、自分たちが住むところに合っているか、無理は無いかな、問題は無いかな等々をみんなで考え、気づきを話し合い、さらに改善して、質の向上をはかり、継続していくことが重要です。

自主防災隊活動のPDCA サイクル



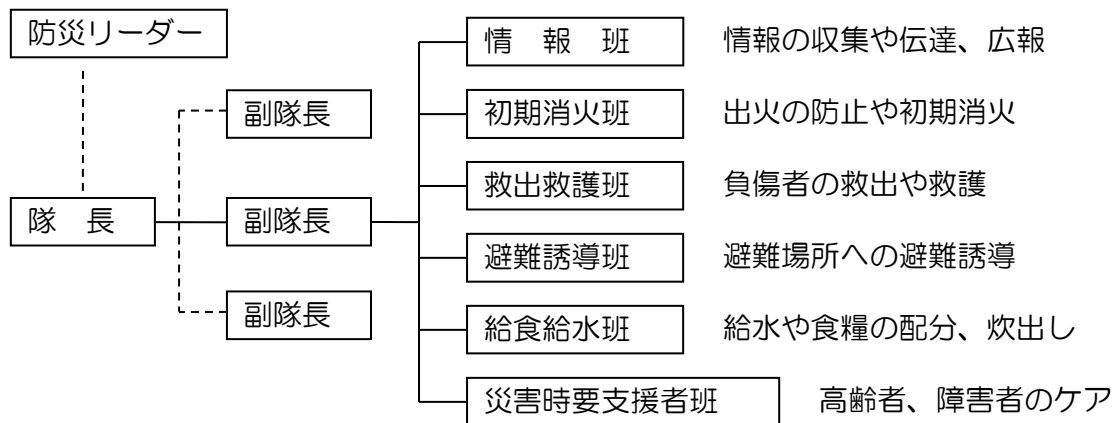
PDCAサイクルとは・・・

P：計画（PLAN）、D：実施（DO）、C：点検・評価（CHECK）、A：処置・改善（ACTION）
これらの4段階を一年かけて行い、一周した「A：処置・改善」を次のPDCAサイクルにつなぐことで継続的な改善、質の向上をはかってゆきます。

【 自主防災隊の組織 】

自主防災隊では災害が発生した時に効果的に動けるようにするためにそれぞれの人が役割を分担するように決めておくことが重要です。

以下に地域でコミュニティが形成できる最小単位（単位自治会等）での組織例をあげておきますので、参考にしてください。



災害は時を選びません。昼間でも夜でも対応が円滑に運ぶように心がけることが大切です。隊長1人に副隊長が複数有るくらいの準備をしましょう。

自主防災隊では「防災リーダー」を育てることも重要です。恵那市では、単位自治会に1人の防災リーダーの設置を目標に「防災アカデミー」を平成22年度から開催しています。

隊長や副隊長など実際に活動の指揮を取る立場の人は年単位で入れ替わることがあります。

かつて指揮を執った方が広い視野で計画作りや見直し作業に参画し、自主防災が継続して円滑に活動できるようサポートすることも考慮します。



【 自主防災隊の役割 】

自主防災隊の組織図の役割りは、次のとおりです。災害発生時には、どの役割でもできるように訓練をしておくことが大切です。

《 情報の収集・伝達や広報 》

どのような災害でも付近の被害状況がどの程度であるかを速やかに把握し、混乱しないように心がけることが重要です。

周りの状況を隊長に知らせ、どのような対策を行うか、早めに決められることが重要となります。また自主防災隊の動きを付近の住民に伝えることも重要です。

《 火災の防止や初期消火 》

地震による被害の次に怖いのが火災です。火災が起きないように火の元の確認や電気のブレーカーを落とすなど速やかに指示・確認できるようにします。また火が出た場合は直ちに初期消火ができるように心がけます。

《 救出や救護 》

建物の倒壊や落下物などで負傷者が発生した場合には救援を待つのではなく、動ける人で協力し合って救出や救護を行います。

《 避難誘導 》

行政機関から避難指示や勧告が出た場合に限らず、家屋の倒壊や火災発生などの状況を見極めて自主的に安全な場所へ避難誘導することを検討し、指示をします。

《 給食や給水 》

災害時に水道が使えない場合や、食糧の調達が行えなくなることもあります。

自主防災の単位で井戸の確保や水の調達・管理を行うことも想定します。また、食糧についても調達や管理を行い、材料から炊出しができるような道具の保有なども行います。

給水車などの巡回や食糧の配給が始まった場合でも、整然と受取れるような体制作りが心掛けましょう。

《 避難行動要支援者の対応 》

避難行動要支援者とは、一人暮らしや寝たきりの高齢者、体の不自由な人、在宅療養者、乳幼児、また外国人など、危険回避にあたって手助けを必要とする人のことです。

情報の提供、避難誘導の補助や優先的な救出・救護、また支援を行うことができるようにします。

避難行動要支援者の把握や対応の仕方については、付近の住民や担当する民生委員などと連携を取りながらすすめるようにしましょう。

【 年間計画による活動のすすめ 】

自主防災隊は、自治会活動のひとつです。色々な行事日程に自主防災活動の時間を増やすことには抵抗を感じることもあります。

しかし、従来から存在する行事に併せて、また行事の前後に自主防災活動を組み合わせるなどの工夫を行って計画してみましょう。

みんなが集まるタイミングを考慮し、意気込みすぎず、短い時間でも楽しく行えるような考え方が重要です。

〔例〕

月	PDCA	防災対策の内容	タイミング
4月	P	防災対策計画の作成と決定	新年度の開始時点
5月	D	自主防災隊の装備点検	定例行事の前後に
6月	D	自主防災隊長が研修を受講	町や区の研修に参加
7月	D	危険箇所の点検	清掃作業の後など
9月	D	全市一斉の防災訓練に参加	単独行事として
11月	D	災害に関する講座の受講	定例会議と併しに
2月	C、A	実施した内容の検証と改善策の作成	引継ぎ資料作成時に



自主防災隊が平常時に行うこと

災害への備えや対策は常日頃の自治会活動が基本です。

災害はいつ起きるかわかりません。またひとたび災害が起きると誰しも荒れる大自然の中に取り残されたような不安な状況になります。

大災害に見舞われたことをイメージして、みんなでよく話し合い、対策を考え、工夫するように心がけましょう。

【 最も重要なポイントは減災対策を行うことです！ 】

- 家屋の耐震診断を受け耐震化を行いましょう。

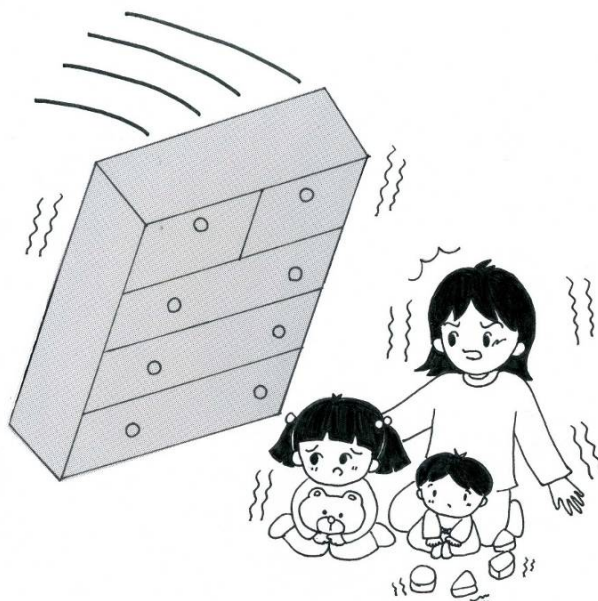
特に昭和56年6月の建築基準法の改正前に建てられた家は早めに耐震診断を行いましょう。耐震化には多くの費用を必要としますが、専門家のアドバイスを受けて最低限の耐震対策を行うことも考えましょう。

- 家具の転倒防止を行いましょう。

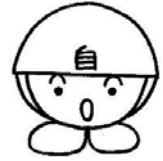
大地震の発生時には大きな家具の下敷きでケガをしたり、命を落としてしまうことが多くあります。特に人の居る時間の長い部屋では転倒防止の対策を行いましょう。

心得

- ・大きな家具の上に物を置かないようにする。
- ・家具の配置を変え、人の居ない方向へ倒れるようにする。
- ・金具などを使い転倒防止対策を行う。



【 自助で行うこと 】



○ 避難経路

風水害の場合の避難は、ハザードマップ等により危険箇所を把握のうえ、予め避難経路を定めておきましょう。

○ 非常持出品の整理

いざという時のために必要な物をひとつの荷物にまとめておくことを心がけ、自分の非常持出袋を用意しましょう。特に自分の生活に必要な物（常用薬、処方箋、メガネ、入れ歯）がすぐに持ち出せるような工夫が大切です。

○ 備蓄品の用意

被災した直後は混乱の連続が想定されます。お店での購入が困難となり、救援物資がすぐに来ることは難しいと考えられます。飲み水や保存食などを家族の人数や年齢構成を考慮して準備しましょう。

恵那市では、市民全員に行き渡る食糧の備蓄はありませんので、水や食糧は常に1週間ぐらいの備蓄に心がけましょう。

家庭で備蓄するとよい食品について
調理せずに食べられるものを備蓄します。 ミネラルウォーター、乾パン、非常食（水やお湯を注いで作るご飯） アルファ米、レトルトのご飯、缶詰やレトルトのおかず、栄養補助食品 ドライフーズ、インスタント食品（ラーメン、味噌汁）、梅干 チョコレートや飴などの菓子類、調味料類
乳幼児やお年寄り・病人用の備蓄も考慮します。 缶詰やびん詰の離乳食、粉ミルク、レトルトのおかゆ
アレルギー食品 普段各個が食べている食料品を少し多めに備蓄します。
食品などといっしょに用意しましょう。 プラスチックや紙製の皿やコップ、スプーン・フォーク、割り箸、缶切、栓抜き

いざというときにすぐ持ち出せるように、日頃から準備・点検をしましょう。



○ 防災畑のすすめ

住宅内の空スペースやプランタを利用して、日頃から季節感ある野菜を育てます。災害時にはそれが食材となりますので、楽しみながら取り組んでみましょう。

○ 井戸の活用

防災井戸の活用として、家庭にある井戸の再利用も重要です。自宅に井戸がある家庭では災害時には水を汲み上げられるように工夫し、ご近所への提供も行いましょう。

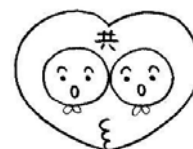
【 共助で行うこと 】

何よりも普段のご近所付き合いを大切にしましょう。

あらゆる年代がまちに住み、誰もが忙しかった昭和の時代を思い起こしてみましょう。

夕食時にお隣さんへ「ちょっとお醤油かしてもらえる？」などという会話があり、誰もが気軽に応じていた時代でもありました。

そうした助け合いや信頼関係は時代が変わっても大切なことです。



○ 年間の活動計画を策定しましょう。

普段のご近所づきあいに加え、自治会の行事には誰もが積極的に参加して楽しめる環境づくりも大切です。このような行事の時をとらえて防災用品の点検や、みんなで炊事を行うことで炊出しの演習にするなど、工夫を行い年間の計画を策定しましょう。

また年に一度は災害に備えるための研修や救命講習を受けることが定例行事になるように計画しましょう。

○ 自分たちの住む地域の危険箇所（脆弱性）の把握

土砂災害（土石流、がけ崩れ、地すべり）の危険、河川氾濫の危険、交通の要所など、自分の住む地域の危険箇所を自主防災隊で確認・把握を行い、その情報を住民で共有するようにしましょう。

地域住民で情報共有するには、災害図上訓練（D I G）が有効とされています。特に避難経路などは事前に話し合い、複数の経路を決めておきましょう。

○ 連絡網や要支援者リスト・個別計画の作成

知っているようであまり知らないご近所の情報を整理し管理することも大切です。

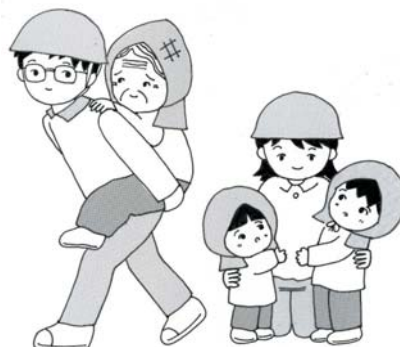
例えば急病人が発生し救急車を呼ぶような場面でも「さて、あそこは何番地だったかな？」と言うような場面があります。あまり詳しいデータを持つ必要はありませんが概要程度は把握しておくことは必要です。特に体の不自由な方のお宅、外国人の住むお宅などは支援や援護が必要であることを把握していただき、避難時には、誰が支援するのかまで地域で話し合い決めておきましょう。

また、耳の不自由な人や外国人に的確な情報を伝えるために、メッセージを書いた紙を用意する工夫などを行きましょう。

○ いっときなんぼしょ 一時避難場所の設定

自治会単位で安全な場所を設定し、避難時の一時待機所や自主防災隊の連絡本部機能を置く場所等を決め、開錠や開設などの役割も決めておきましょう。

ここでは安否の確認やさまざまな情報の把握や広報、救援救護をはじめ炊出しの対応が出来ることが望ましいと考えます。



○ 指定避難所の運営

災害が発生し、避難生活が必要になった場合、避難者により避難所運営組織（避難者で組織し、共同生活を維持する上での重要事項を決定する組織）を立上げることとなります。

地域内の指定避難所管理者等を含めた組織を立上げ、運営マニュアル等の作成をしていくことが望ましいと考えます。

○ 防災備蓄品の装備

自主防災隊が使う用品や救出・救援に使う道具、食糧の備蓄などを行います。特に道具類や医療・衛生用品、また炊事関連用品を準備することをお奨めします。

種 別	主 な 品 物 の 内 容
用 品	主に事務用品、記録、広報などを行うための用品
道 具	一般的な土木、建築資材（パール、ノコギリ、ジャッキ）、ヘルメット
医 療	ケガ、一般的な病気に対応できる医薬品類
衛 生	簡易トイレ、紙類、紙おむつ、消毒薬や石鹸類を装備
炊 事	炊出し道具、給水タンク、ハイゼックス袋、食器類、燃料類を装備
電 気	発電機、投光器、乾電池、放送機材などを装備
非常食料	非常用保存食料
非常飲料水	ペットボトル（1人1日3リットル）

自主防災隊では年に1～2回程度の周期で備蓄品の点検や、炊出しの演習などを行うように計画しましょう。（詳細は資料-4 自主防災隊が装備をしたい品物の一覧表を参照してください。）

○ 最低1週間以上は生き延びる心がまえを！

大災害になった場合はすぐには救援が無いと思って行動することが重要です。

このような場合は自主防災隊の単位で共同の生活をするようになります。飲むこと、食べること、就寝や安全確保を行うこと、すべてを自分たちで行わなくてはなりません。公的な救援が来るまでは自主防災隊が中心となった運命共同体になります。

最低1週間はみんなで生き延びる知恵と工夫を行えるように心がけましょう。



炊き出しを行う時に自主防災組織に物資が無い場合は、家庭より一品持ち寄り、集まったものでメニューを皆で考え献立を考えて作りましょう。また、季節感のあるものになるよう配慮しましょう。

○ 家具の転倒防止を協力して行う。

自主防災隊が中心となって地域内の家具転倒防止対策を行うことも重要です。

特に高齢者や体の不自由な方の住むお宅への対策を優先し命を落とさない工夫を行います。普段の共同作業を通してお互いの信頼関係をより一層高めることも考えましょう。

【 自主防災隊の訓練メニュー 】

防災の日や防災倉庫の点検を行う日などには自治会で訓練計画を立てて活動するようにしましょう。上手く行くこと、出来ることは繰り返しの練習の成果と考え、みんなで話し合い、工夫し、焦ることなく続ける努力が大切です。

また訓練の内容は大災害の時に行うことばかりではなく、普段の生活においてもすぐに役立つことばかりです。

自主防災隊で訓練した内容を家族といっしょに行うことも心がけましょう。

訓練メニュー

メニュー	訓練の概要
避難訓練	一時避難場所へ集まり人数の確認を速やかに行います。 また同時に情報の収集や伝達・広報の仕方を訓練します。
バケツリレー	初期消火の基本！ 水の有る箇所と火の出た箇所をうまく連携
消火器の扱い	消火器の扱い方を練習します。
土のう積み	土のう作りや土のうの積み方などを行います。
炊出し訓練	非常食や非常用の炊飯袋を使い炊出しを行います。
簡易トイレ	クワデルの法則（食うと出る）は健康維持にとっても大切です。 被災時に必要な簡易トイレの製作を行います。
応急手当	三角巾を使った応急手当のやり方を練習します。
疾病者搬送法	ケガや病気で動けない人の運び方を練習します。
ロープワーク	物を運ぶ、物と物をつなぐ等々、色々な結び方を練習します。
災害図上訓練 (DIG)	地図を使い自分たちの住む地域の危険箇所や避難経路などを記入し、対策を話し合います。
クロスロード ゲーム	災害に対応したカードゲーム。災害に対する考え方を Yes/No で 示し参加者同士で意見を述べながら進めます。
イメージ トレーニング 目黒巻き	災害の事前から発生時、発生後に起きる様々な問題を時間の経過によって どのように解決するかを想定し、参加者で討議しながら解決策を求めて行 きます。
地区防災アク ションプラン	地区における防災計画をワークショップ形式により作成。皆さんで意見を 出し合いながら自分たちのプランを作ることができます。

道具が必要な場合や専門家の指導を仰ぎたい場合、また資料の請求その他防災に関する相談は何でも「市役所の防災情報課」へご連絡ください。



災害図上訓練



AEDの使い方



ロープワーク演習

災害時に自主防災隊が行うことは？

基本は自助・共助・公助の考え方で進みましょう

(大災害時は、自助・共助・公助の割合が、7：2：1といわれています。)

【 自助 自分の身の安全に心がけます 】

- 災害の発生時は、まず自分の命を守り安全の確保を行きましょう。
- 大地震が発生したら落下物に注意し身の安全を確保します。



ひとり一人がケガをしないように、また命を落とさないように心がけることが救援や救護の手間を少なくすることであることを認識しましょう。
被災の状況が収まった時は家に居る家族の安否や安全確認を行い、引き続きお隣やご近所に声をかけてお互いの安否確認を行きましょう。お隣同士が早めに安否確認を行うことで被災状況の早期把握につながります。



- 大雨による水害や土砂災害の恐れのある場合は、早めの避難に心がけます。

【水害の場合】

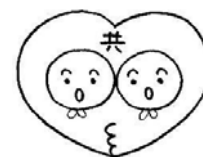
自宅を離れて避難する場合は、指定緊急避難場所の開設状況や一時避難所の開設状況を確認のうえ避難します。風雨が強くなったの避難は、逆に危険を伴うことがありますので、避難のタイミングを逸した場合等は、自宅内の比較的安全な場所で待機する行動も有効です。

【土砂災害の場合】

特に土砂災害特別警戒区域（レッドゾーン）や警戒区域内（イエローゾーン）にお住まいの方は、気象情報に注意し早めに安全な場所へ移動するか、自宅の2階の谷側の安全な部屋で待機するなどが有効です。



【 共助 自主防災隊が被災状況の把握を行い活動の方針を決めましょう 】



○ 避難の判断、支援

行政機関からの伝達により避難指示等の避難情報が発令された場合は、自主防災の単位で速やかに指定緊急避難場所へ避難を行います。避難情報がなくても自主防災隊で被災予想や状況の判断を行い、そこに留まることが危険であると判断した場合は自主的に全員で避難を行うことを判断することが重要です。

また避難の準備や行動にあたっては、避難行動要支援者に優先して情報の伝達をするとともに、避難の支援を行います。

○ いっときひなんじょ 一時避難所の開設

風水害の場合は、気象情報や避難準備情報等により、避難が必要とされる場合は、予め地元で決めてある一時避難所を速やかに開設し、避難者の一時的な受入れを行います。

○ 被災状況の把握、活動

自主防災隊長は副隊長やそれぞれの役割を持つリーダーと共に自分たちの住む地域の被災状況の把握を行います。なお時間帯によっては隊長やリーダーが不在の場合もあります。手の空いた人で協力し合うように心がけてください。

自分たちの住む地域（自治会）の被災状況を情報班の担当者や自治会の班長などから収集して救援活動の方針や優先順位を検討します。

被災状況に応じて行う活動

①防火対策、初期消火	火を出さない、初期消火の準備や対応をします。 避難時は電気のブレーカーを切り、ガスの元栓を閉めます。
②救出救援や応急手当	情報の把握や収集により救出活動や応急手当にあたります。 必要機材の運搬や救助の時は、数名で行い、お互い声を掛け合って行動しましょう。
③避難行動要支援者の確認	避難行動要支援者の安否を確認し、必要に応じて集会所や避難所への誘導や搬送を行います。
④二次災害の防止	倒壊家屋からの退避の補助や道路上の落下物・散乱物の排除などを行います。
⑤危険箇所の把握	倒壊した家屋の状態把握、山崩れや水害の恐れのある箇所の確認を行います。

自主防災隊が参考とする資料

自主防災隊の活動計画にあたっては、以下の計画書やマニュアル、ハザードマップを参考にしましょう。

- 恵那市地域防災計画
- 災害時要援護者支援対策マニュアル
- 災害時要援護者防災行動マニュアル
- 恵那市避難所運営マニュアル
- 福祉避難所運営マニュアル
- 防災マニュアル（平成 26 年度版）
- 土砂災害ハザードマップ
- 洪水ハザードマップ（阿木川・横町川・永田川・田違川、小里川）

※ 上記は恵那市ホームページから入手できます。

自主防災隊が活用する窓口

対応窓口	電話番号	対応内容
恵那市役所 危機管理課	0573-26-2111	防災全般に関する窓口 研修や各種演習の相談、申込み
恵那市消防本部 防火：予防課 救命：消防課	0573-26-0119	防火や救命に関する専門知識
恵那市社会福祉協議会 地域福祉課	0573-26-5221	ボランティアに関する窓口

自主防災隊が研修を行うときは、こちらで！

○ 出前講座

自主防災隊の要望に応じた防災に関する各種講座を受講できます。

○ 恵那市版・災害ボランティアコーディネーター養成講座

災害の危険性の講義、災害図上訓練（DIG）、炊出し演習、避難所運営、避難所体験、ボランティアセンター開設演習など、災害発生に備える知識を学びます。



○ 恵那市消防防災センター

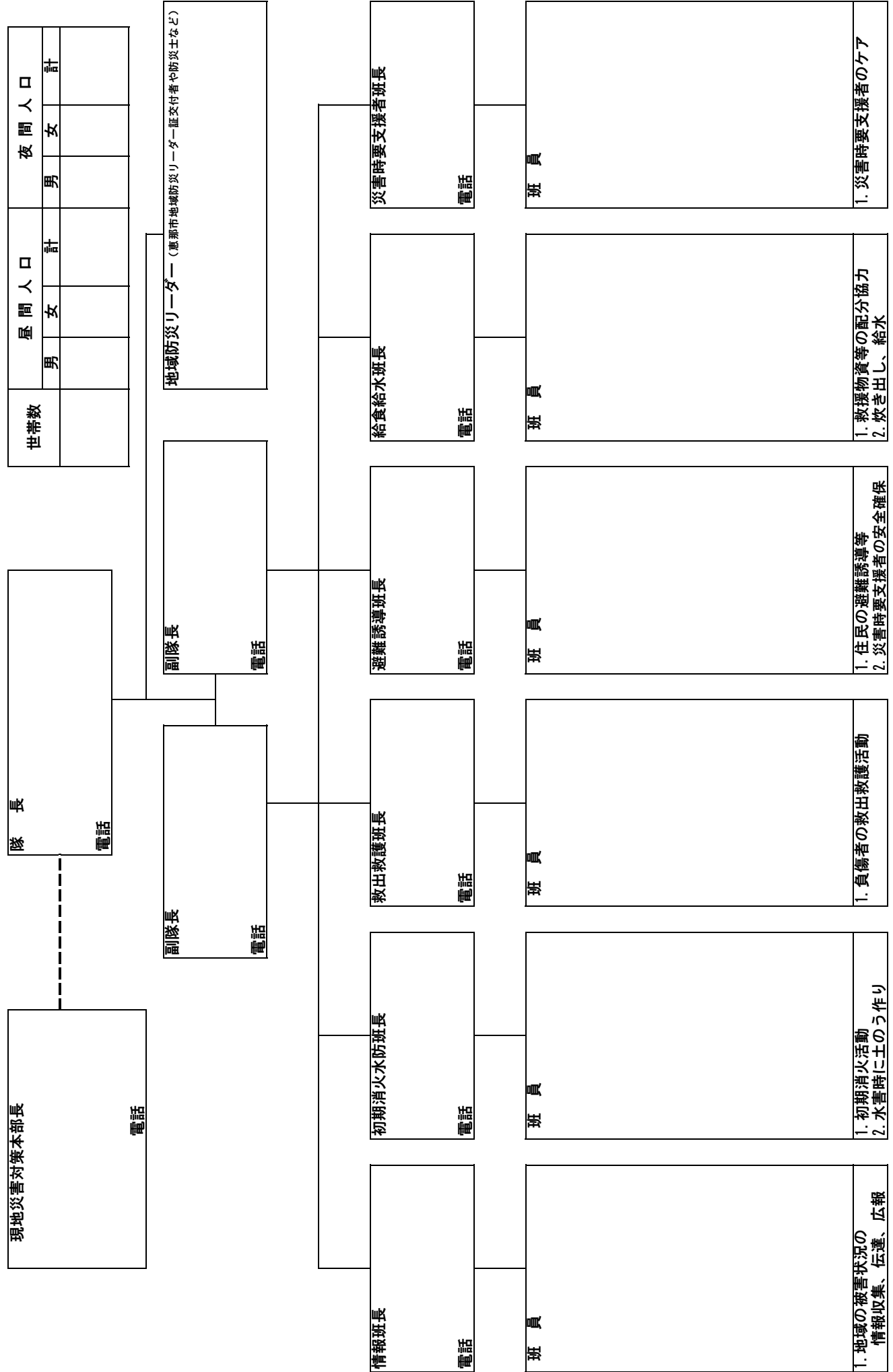
自主防災隊や各種団体の防災研修ができます。
 展示コーナー（災害備蓄品、資機材など）
 災害シミュレーター体験コーナー
 家具転倒防止実演コーナー
 3次元空撮ハザードマップシステム
 地震発生5分間の行動
 液状化実験装置
 地震体験車「震ちゃん」



() 町 ・ 区 ・ 自治会

【 補 註 一 】

年度 自主防災隊編成表



【資料－２】

〇〇町（区）自主防災隊規約 （例）

（名称）

第1条 この組織は、〇〇町（区）自主防災隊（以下「防災隊」という。）と称する。

（活動拠点）

第2条 防災隊の活動拠点は、次のとおりとする。

（１）平常時は〇〇とする。

（２）災害時は〇〇とする。

（目的）

第3条 防災隊は、住民の隣保協同の精神に基づく自主的な防災活動を行うことにより、地震その他の災害（以下「地震等」という。）による被害の防止及び軽減を図ることを目的とする。

（事業）

第4条 防災隊は、前条の目的を達成するため、次の事業を行なう。

（１）防災に関する知識の普及・啓発に関すること。

（２）地震等に対する災害予防に資するための地域の災害危険の把握に関すること。

（３）防災訓練の実施に関すること。

（４）地震等の発生時における情報の収集・伝達、避難、出火防止及び初期消火、救出・救護、給食給水等応急対策に関すること。

（５）防災資器材等の備蓄に関すること。

（６）他組織との連携に関すること。

（７）その他防災隊の目的を達成するために必要な事項

（会員）

第5条 防災隊は、〇〇町（区）内にある世帯をもって構成する。

（役員）

第6条 防災隊に次の役員を置く。

（１）隊長 1名

（２）副隊長 若干名

（３）班長 若干名

（４）会計 1名

（５）監査役 2名

２ 役員は、会員の互選による。

３ 役員の任期は、〇年とする。ただし、再任することができる。

（役員の実務）

第7条 隊長は、防災隊を代表し、平常時及び災害時における応急活動の指揮命令を行う。

２ 副隊長は、隊長を補佐し、隊長に事故があるときはその職務を行う。

３ 班長は、事業計画の立案及び活動の推進にあたり、班活動の指揮命令を行う。

４ 会計は、防災隊の予算編成機能の中心となり収支決算を行い、金銭の出納・管理を行う。

５ 監査役は、防災隊の会計を監査する。

（会議）

第8条 防災隊に、総会及び役員会を置く。

(総会)

第9条 総会は、全会員をもって構成する。

2 総会は、毎年1回開催する。ただし、特に必要がある場合は臨時に開催することができる。

3 総会は、隊長が招集する。

4 総会は、次の事項を審議する。

- (1) 規約の改正に関する事。
- (2) 防災計画の作成及び改正に関する事。
- (3) 事業計画に関する事。
- (4) 予算及び決算に関する事。
- (5) その他、総会が特に必要と認めた事。

5 総会は、その付議事項の一部を役員会に委任することができる。

(役員会)

第10条 役員会は、隊長、副隊長、班長によって構成する。

2 役員会は、次の事項を審議し、実施する。

- (1) 総会に提出すべき事。
- (2) 総会により委任された事。
- (3) その他役員会が特に必要と認めた事。

(防災計画)

第11条 防災隊は、地震等による被害の防止及び軽減を図るため、防災計画を作成する。

2 防災計画は、次の事項について定める。

- (1) 地震等の発生時における防災組織の編成及び任務分担に関する事。
- (2) 防災知識の普及に関する事。
- (3) 災害危険の把握に関する事。
- (4) 防災訓練の実施に関する事。
- (5) 地震等の発生時における情報の収集・伝達、避難誘導、出火防止、初期消火、救出・救護、給食・給水、災害弱者対策、避難所の管理・運営及び他組織との連携に関する事。
- (6) その他必要な事項

(会費)

第12条 防災隊の会費は、総会の議決を経て別に定める。

(経費)

第13条 防災隊の運営に関する経費は、経費その他の収入をもってこれにあたる。

(会計年度)

第14条 会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(会計監査)

第15条 会計監査は、毎年1回監査役が行う。ただし、必要がある場合は、臨時にこれを行うことができる。

2 監査役は、会計監査の結果を総会に報告しなければならない。

付 則

この規約は、〇年〇月〇日から実施する。

恵那市 町連合会 自主防災隊長 殿

年度 地区防災計画 自主防災隊年間計画書

隊長名		避難場所	自治会名
月 日	実 施 項 目	内 容	ヒント
4月 日			計画策定
5月 日			地域検証
6月 日			研修会
7月 日			研修会
8月 日			演習・研修会
9月 日			演習・研修会
10月 日			演習・研修会
11月 日			演習・研修会
12月 日			演習・研修会
1月 日			照査
2月 日			照査
3月 日			引継資料作成

提出日 年 月 日

提出先 担当区長または、所属長

計画策定は、地区防災計画アクションプラン（G+DAP）により課題を整理します。
 地域検証は、地域の社会特性・自然特性等について現地を見て確認しましょう。
 研修会は、行政や有識者など専門的研修や自らの研修等を行います。
 演習は、年間に分けて災害事象や内容を変え繰り返し行いましょう。
 照査は、年間取り組んできた活動を振り返り次年度への引き継ぎの調整を行います。
 引き継ぎ資料作成は、地区防災アクションプランシートをもとにまとめます。

【資料－４】 自主防災隊が装備をしたい品物の一覧表

防災倉庫の装備品詳細リストについて

事務用品関連

○布ガムテープ（白・黄・赤・茶・・・） 貼り易く、はがし易い 名札になる。また色別に用意し用途別・識別が可能
○コピー用紙（A4、A3、B5）、ノート 記録、情報伝達や広報（伝言）などに使用
○一般的事務用品 油性マジック（黒・赤・・・）サインペン、定規、付箋紙、のり、はさみ、 カッター、定規、セロテープ
○折たたみ机やイス 窓口対応などを考慮

道具関連

土木用機材	ヘルメット、バール、スコップ、つるはし、ロープ、バケツ、ハンマー、一輪車、土のう袋
大工道具関連	ジャッキ、脚立、ハシゴ、のこぎり、金づち、ヨキ、オノ
テント	テントまたはブルーシート、ロープ、支柱になる物
その他	ローソク、ライター、キャンプ用マット

電気関連

電気	懐中電灯、ランタン、電球、投光器、ラジオ、コードリール、インバーター、メガホン、乾電池
----	---

医療関連

医薬品	傷くすり、塗りくすり、内服薬、湿布、包帯、三角巾、添木、板（担架用）
-----	------------------------------------

衛生関連

トイレ関係	簡易トイレ、トイレトーパー、ゴム手袋 フタ付きバケツ（汚物用）、黒色ビニール袋 囲い用（ブルーシート＋支柱）
衛生関係	消毒薬、石鹼、洗剤、ゴミ袋 フタ付きバケツ、ビニール袋（黒以外の別色）

炊事関連

炊事・食事関係	炊出し用釜、カマド、ハイゼックス炊飯袋
非常用保存食料 （飯類や乾パン等）	サランラップ、ゴム手袋、ビニール袋（透明）、給水袋、 バケツ、桶、ナベ、やかん、食器（皿、茶碗、カップ）、 計量カップ、台所洗剤、スポンジ
給水（飲料水用）	ポリタンク、透明なビニール袋、ホース
燃料	練炭、豆炭、カセットコンロ、ガスバーナー、薪

以上のリストアップ品は必要と思われる物品を種類別に記載しましたが、さらに優先順位と装備日程計画を立て、順次装備することとします。

【資料－５】 地区防災計画の策定を軸にした自主防災活動の活動内容例

チェック	作業項目	備 考
1. 活動準備段階		
① 活動を定義しよう		
<input type="checkbox"/>	対象地域を明らかにしよう	
<input type="checkbox"/>	ステーク・ホルダー(地域の防災に関する組織や住民)を明らかにしよう	
<input type="checkbox"/>	活動の目的を決めよう	
<input type="checkbox"/>	最終成果物を決めよう	
<input type="checkbox"/>	予算を決めよう	
<input type="checkbox"/>	期間を決めよう	
<input type="checkbox"/>	終了条件を決めよう	
<input type="checkbox"/>	活動推進に求められる役割構成を決めよう	
② 活動を立ち上げよう		
<input type="checkbox"/>	コミュニティーのキーパーソンに協力要請しよう	
2. リスク分析段階		
① コミュニティーの計画策定チームを作ろう		
<input type="checkbox"/>	地区防災計画策定メンバーを集めよう	
② コミュニティーの現状を分析しよう		
<input type="checkbox"/>	コミュニティーの既存の防災への取り組みを列挙しよう	例えば、夜回り、消防団の活動、防災無線、避難訓練、ハザードマップ作りなどの活動です。 列挙することによりコミュニティーとしての活動の程度(現実的な実行可能性や限界等)を把握します。
<input type="checkbox"/>	外部の団体から学ぼう	消防、警察、役所、病院、ライフライン関連企業などから、地域での防災への取り組みについて話を聞いてみましょう。
<input type="checkbox"/>	条例と規則について確認しよう	地域の防災に関してどのような決まりごとがあるのか行政担当者に確認してみましょう。
<input type="checkbox"/>	人的資源について確認しよう	コミュニティーには、どのような人がどのような時間帯に存在し、実際にどの程度の活動が可能かを調べてみましょう。
<input type="checkbox"/>	コミュニティーの物的資源について確認しよう	災害時に使用可能な機材(防火・消防機材、通信機材、応急手当用品、緊急事態用補給物資、警報システム)や利用可能な施設があるか確認してみましょう。
<input type="checkbox"/>	外部の資源について確認しよう	国や県、消防・警察、地域に関連する大企業、ボランティア団体等からどのような支援が得られるか確認してみましょう。
<input type="checkbox"/>	保険について確認しよう	コミュニティーにとって重要な施設については、火災保険・地震保険への加入も検討してみましょう。
③ コミュニティーの脆弱性を分析しよう C+DAP シート③		
<input type="checkbox"/>	潜在的な危機を書き出そう	地域に存在すると思われる「危機」を列挙してみましょう。 歴史的要因:過去に地域で発生した危機や災害 地理的要因:例えば、「川のそば」「道幅がせまい」「急な坂道がある」「がけがある」「断層の近傍に位置する」「土砂災害の懸念がある」「避難場所がない」など 物理的要因:例えば、「木造二階建てが多い」「間口が狭く避難し難い建物が多い」「旧建築基準法による建物が多い」等
<input type="checkbox"/>	潜在的な人的被害を考えよう	それぞれの危機での死者や負傷者が発生する状況やその可能性を想定してみましょう。「地域に高齢者が多い」「災害時要支援者がどこにいるかわからない」
<input type="checkbox"/>	潜在的な物的被害を考えよう	それぞれの危機での、施設や財産に対する被害の状況やその可能性を想定してみましょう ²⁴ 「防災倉庫の鍵の管理」「避難所の安全性」「防災井戸」「食料の備蓄」「避難路の安全」

地区防災計画の策定を軸にした自主防災活動の活動内容例

チェック	作業項目	備 考
3. 地区計画策定段階		
① 対策を抽出しよう C+DAP シート④		
□	対策を列挙しよう	<p>コミュニティにとっての「危機」に対して、以下の4時点における対策は何かを考えてみましょう。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 被害が出ないように危機発生前からできること 2) 被害が出てしまった後その被害が大きくなるように、危機発生前からできること 3) 危機発生直後、コミュニティがすべきこと 4) 危機発生後2週間、状況がある程度落ち着いた後、コミュニティの復旧のためにすべきこと <p>ここでのポイントは、実現可能性に重点をおくのではなく、「危機」に対して必要な対策は何かを考えて、思いつくものを列挙していくことです。</p>
□	<p>列挙された対策を整理してみよう</p> <p>事前対策・教育・訓練・活動の見直し・人づくり・地域づくり・ことづくり・ものづくり・資金・情報・PR</p>	<p>列挙された対策を吟味し、整理しましょう。整理の方法としては、次のような視点が考えられます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 土地利用計画 2) 重要施設の配置 3) 店舗・個人住宅における対策 4) 広報活動 5) 防災教育 6) ビジネスの再建のための対策 7) 防災対策のための財源 8) コミュニティの防災対策能力の向上 9) 防災に関する研究成果や技術の吸収
② 地区防災計画を策定しよう C+DAP シート⑤		
□	対策を実現可能にするための「行動目標」と「具体的な実践計画」を明確にしよう	<p>「各々の対策を実現するために、コミュニティは具体的にどのような行動をとっていくべきか」を話しあいリストにしてみましよう。例えば、行動目標としては「消火器を配置する」、実践計画としては「何月何日に何個の消火器を購入して段階的にどこに配置する」というものです。</p>
□	行動目標の優先順位を明確にしよう	<p>それぞれの行動目標が、以下のどれに該当するかを考えながら優先順位を決定してみましよう、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) ここ1年の間に実現可能 2) 2～3年の間には実現したい 3) 長期的に実現を目指す
□	<p>計画を記述しよう</p> <p>誰が・何を・どれだけ・どのようにすべきか</p>	<p>以上の作業の内容を反映させながら防災計画を記述してみましよう。具体的には、以下の6つを内容として計画を記述します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 防災計画の目的 2) 計画が対象とする事態（「危機」の想定結果） 3) 対策体系（対象のフィールドごとの整理結果） 4) 対策を実現可能にするプログラム （行動目標と具体的な実践計画） 5) それぞれのプログラムのスケジュール 6) それぞれのプログラムの実施責任者、体制

地区防災計画の策定を軸にした自主防災活動の活動内容例

チェック	作業項目	備 考
4. 計画実施段階・防災計画を実施しよう		
<input type="checkbox"/>	行動目標実現のための資源を調達しよう	各々の行動目標実現のために必要な、人的資源、物的資源、資金の調達方法について話し合ってみましょう。 コミュニティ内でまかなえない資源であれば、外部の資源に頼ることになります。行政などへ働きかけるように、コミュニティを導いていくことも大切です。
<input type="checkbox"/>	地区防災計画を実行しよう	確保した資源を用い、防災計画を実行してみよう。 実行に際しては、その内容を記録しておくことが重要です。 活動の記録は、次年度の活動をより充実したものとしていくことにつながります。
<input type="checkbox"/>	コミュニティをとりまく環境に、行動目標を後押しする要因があるか検討しよう	「行政や NPO などによる防災講座の開催」や「近隣企業での防災訓練」など、コミュニティの外に行動目標を後押しするチャンスがあれば、積極的に導入を検討してみよう。 コミュニティをとりまく人々とのコミュニケーションによって、コミュニティ内の論議では出てこなかった新たな対策や行動目標・実施計画が出てきたり、防災計画策定の進度が加速したりすることもあります。
5. 評価改善段階 C+DAP シート⑥		
<input type="checkbox"/>	活動を評価しよう	一年間の活動を振り返って見てみましょう。 その際は、「1. 活動準備段階」での活動の定義を踏まえ、以下の問いに答える形で進めてみましょう。 <input type="checkbox"/> 対象地域やステーク・ホルダー（地域の防災に関係する組織や住民）の設定は妥当でしたか。 <input type="checkbox"/> スケジュールどおり活動できましたか。 <input type="checkbox"/> 予算どおり活動できましたか <input type="checkbox"/> 最終成果品は得られましたか <input type="checkbox"/> 活動の目標は達成されましたか もし必要があれば、次年度の活動においてはその定義を改善してみよう。
<input type="checkbox"/>	地区防災計画を評価・改善しよう	防災計画全体の評価を1年に1度行ってみよう。 その際は、以下の問いに答える形で進めてみましょう。 <input type="checkbox"/> 活動を進める中で計画を改善する必要性が出てきましたか。 <input type="checkbox"/> 活動の中で新たに得た教訓によって計画を改善する必要性が出てきましたか。 <input type="checkbox"/> コミュニティ内の変化、特に地理的条件や物理的条件の変化によって計画を改善する必要性が出てきましたか。 振り返って項目をフュージョンごとに整理しましょう。 (ア) 災害前 ②初動（災害直後） ③応急・復旧・復興 もし必要があれば計画を改善してみよう。

平時に事前対策・教育・訓練・活動の見直し・人づくり・地域づくり・ことづくり・ものづくり・資金・情報・PR・防災意識向上など付箋をはり、その後カテゴリーごとにまとめてくる。

① **アイスブレーキング** ② **災害想定**

自己紹介
リーダー/発表者/書記

季節 春夏秋冬
時間 天候

台風 土砂
地震 水害

③

脆弱な部分	自然特性	社会特性
自治会長		
防災隊長		
総務班		
情報班		
要援護班		
消火班		
救出救護班		
防犯巡回班		
給食給水班		
物資配分班		
清掃班		
衛生班		
事業所		
コンビニ		
給油所		
商店街		
地区居住者		
消防団員		
地域団体		
防災士		

防災協働社会をめざして
自分たちの地域は自分たちで守る
取り組もう地区防災計画。

⑥ **振り返り** (フェーズごとに見直し)

⑤ **実践と検証** (具体的なプランを記入しよう)

災害前

初動

応急・復旧・復興

災害時に誰が・何を・どれだけ・どのようにすべきか

地域共同による防災訓練

発表